

師範學校
編輯小學讀本
二

ホ 2
5718
2



戸 2
ホ 2
5718
巻 2

師範學校編輯

卷二

小學讀本

明治七年
八月改正

文部省刊行

41-6424

小學讀本卷之二

第一

此女兒ハ、人形と持て
る。汝も人形と好む
ら。我も甚こきと好
めり。此男兒も人形
と持てりや。否男兒
ハ人形と持たばして



田中義廉 編輯
那珂通高 訂正

陸奥國
陸奥國
陸奥國

陸奥國
陸奥國

鞭と持てり、男兒の遊ハ、女兒と異あれはをり、
老たる牝雞、鷺の子と多く伴へり。○此鷺の子ハ、



皆水の中ニ飛入まり。○此鳥ハ、
其性水上ニ泳ぐことと好まり、
○牝雞ハ其沈ミ溺まんとことと、
恐まて、甚憂ひ悲めり。○然まて
も鷺の子ハ牝雞の心と量り知
らざりて、隨意ニ游べり。○牝雞
ハ何と憂ひ悲むと思ふや。○牝
雞ハ此鷺の游水鳥あると知ら

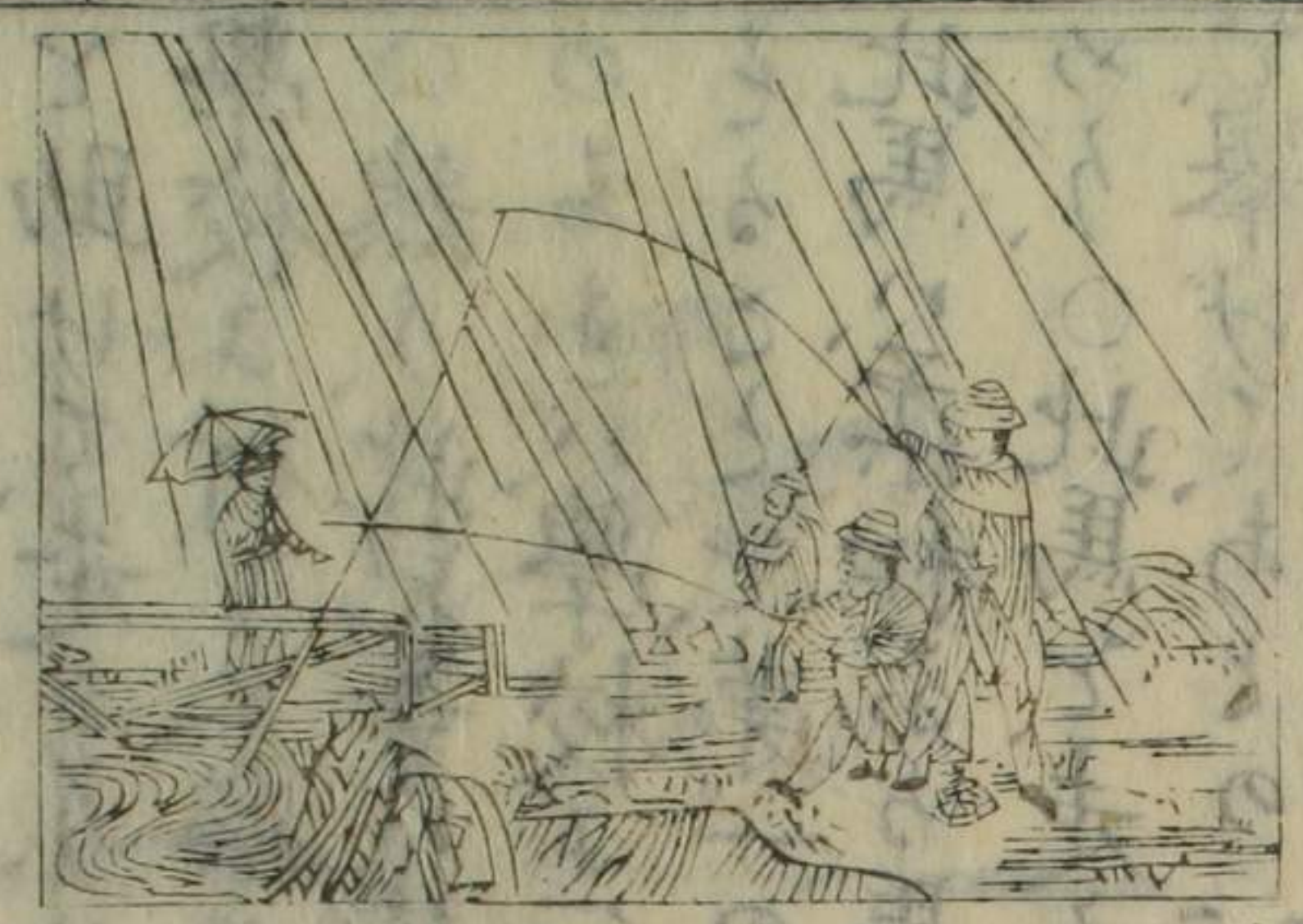
べりて、我子と思ひ悲めらるなり」

爰ニ成長したる鷺なり。○鷺鳥の
嘴ハ牝雞の嘴より大よりて、其
足ハ蹠り、故ニ水ニ入りて、能
く泳ぐことと得るあり、



此ハ何家あると知まりや。○これハ學校あるべ
し、數多の男女の子、此家ニ通ふと以て、知らまた
り。○汝ハ小兒の遊歩場ニ出で、遊ぶと見たる
や。○數多の小兒出で、走るもりり、球と弄ぶも
りり、或ハ紙鳶と揚げ、或ハ輪と廻りて遊べり、

○男兒も、女兒も、學校
 へ行く、能く勉強せよ
 一、能く勉強したる
 後、非きば遊歩をゆ
 るさるとも、誠、樂ま
 ことい、なまきものあり、
 今此子の釣りを魚
 の、鯉あり、○汝も魚と
 釣り得たるとき、能く心を用るよ、釣糸と切ら
 ること、ゆるべし、○天曇りて、雨少しく降り來



きり、○魚と釣ちよ、雨太の
 ときと宜しとをらる、○然る
 少しく雨降りて、風多、暖か
 る日と宜しとん、○汝も魚と
 釣ちと以て、宜しき事と思ふ
 う、○然り魚と釣ちて、食をら
 り、悪しき事、ゆるべと雖、釣
 りたる魚と、弄ひて、徒、捨つ

る、宜しう、
 男兒と、女兒と、何れ、○それ、學校へ行く、途中を

り。○今急ぎて、學校へ行かん
 と、思ふがゆゑ、男兒ハ、女兒
 と助けて、走まり。○此兒等ハ、
 學校へ行くと、樂と思へりや。
 ○然り、此兒等ハ、其性善きも
 のあまきバ、學校へ行きて、學問
 をするることと、第一の樂と思ふあり。
 此馬ハ、柔和あり、馬ゆゑ、二人の小兒と、乗せて歩
 り。○此馬と、走ると、思ふあり。○此馬の、前の一足
 と、擧げて、あとの一足と、下きんと、するると、見まば



走るよハ、何れハ、徐く歩
 むあり。○前の小兒ハ、手
 綱と、兩手よ、持ちたまきど
 も、其見ゆるハ、只右の手
 のみあり。○後の小兒ハ、
 馬より、落つることと、恐
 らく、ゆゑ、前の小兒と、
 抱きてをまきり。
 此處ハ、工人の作事場あり。○數多の大人ハ、作事
 と事とせり。○二人の小兒ハ、此作事場より、來り板

一乗りて、遊び戯を居る、一人の小兒ハ、高く上
 ぐ、又ハ、低く下りたり
 たり。汝ハ、小兒の傍に
 何る器と何ありと思ふ
 ヤ。○こまハ、斧と鋸あり
 ○汝ハ、此小兒等と善き
 小兒と思ふら。○作事場
 に來りて遊ぶハ、善き小
 兒ハ、何々ぞらべし。○
 今ハ、遊歩をばき時間と



ハ見えん、學問をばき時間あり。○學問をばき時
 間ハ、作事場ハ來りて、遊び戯を、作事の妨とらる
 ハ、必ししき小兒なり。○汝等ハ、遊歩のときも、作
 事場ハ來るべし。○遊歩場を遊ぶべし。

第二

我等の住居する世界ハ、平あるものよ。○地球
 ハ、圓くして、球の如きものあり。故ハ世界と地球
 とハ、一。○此世界ハ、靜あるやうに覺ゆ。まども實
 ハ、動くものなり。毎日一廻づ、旋りて一年ハ、
 太陽の周りと、一旋りするものあり。○太陽ハ、圓

ききものよき、世界よ光と、
 熱とと與ふるものあり、
 ○我等、晝ハ太陽と見え、
 ども夜ハ見ることをし、
 ○汝夜の太陽と見るこ
 とと得ざるハ、何ゆゑな
 ると知まりや、○夜ハ太
 陽の方よ、向をざるゆゑ
 ニ、見ることを得ざるな
 り、○月も亦圓きものな



ききもの、太陽及地球の如く、
 太陽の光と受け、
 めて、輝くものあり、
 我等一同、草刈場よ、出
 來まら、○小兒ハ、刈りた
 る草の上よ、坐し居て、草
 と刈りと觀る、○枯草ハ、
 柔らるる物なれば、此上ハ、
 遊び戯るゝ、宜しきな
 り、○草ハ、牛馬の食あり、



牛馬と畜ふ家よそ、夏の間よ刈りて、こ
 まと貯ふ。



狐ハ犬よ似たる獸よして、
 頭平よ鼻と耳とハ尖りて、
 尾ハ甚長し。○此獸ハ穴の
 中よ住し、晝ハ隠きて出で
 ば、夜よ入るべ、穴より出で
 て、田畠の傍と遊行ん。○狐
 ハ食と貪る獸よして、多く
 雞の雛と食ひ、又好きて桑

の實櫻の實等と食ふ。○雞と捕ふまふ、穴よ持ち
 行きて、こまと食ふ。○もし、犬と見るとまきハ穴の
 中よ逃げ入りて、出づることあり、是ハ穴よ入ら
 ざれば、直よ、犬よ噛み殺さるるが故あり。
 蝸牛といハ蟲ハ、足あまゆゑよ、歩むこと能るん、
 只匍匐するのみあり、



この蟲ハ背の上よ殻有りて、物
 よ恐るるとまきハ、其中よ縮み入
 る。○蝸牛の動くときハ、四本の
 角と出だれ、其中、二本の長き角

の先目らり、短き角の下ふ口らり。○此處は冬
 土の中み伏し、春の至ると待ちて出づるなり。
 汝は此處に男兒と女兒
 と驢馬の在ると見たり
 や。○男兒は驢馬に乗ら
 んと云。○何如し汝は乗
 り易からべしと思ふら
 ○驢馬は小さき馬なれ
 ども小兒は乗り難う
 らべし。○遙の向ひは荷車らり、汝は此荷車と



何ありと思ふや。○遠き處ゆゑ慥に見分くるこ
 と能まされども畠の小路にらると見まは穀物
 と載せたる車あるべし。
 此圖は画きたるもの、何ありや。○大人と小兒
 と二人水中に立てり。○此等は何と云はや。此
 人々の魚と漁をるなり。大人の釣りたる魚は犬
 あるゆゑ強く曳らば糸の切まんことと恐ま
 て、遠く曳き挙げざらあり。○男兒の持ちたるも
 のも何ありと思ふや。○そまは網の類にてたま
 とつものあり。○男兒は此網と以て魚を捕へ

んといふ。○大人の脇に懸
 けたら、何あるぞ。○こ
 まい、蓋のわら籠めて、其
 中へ魚を入らざらむ。○
 此人の立ちたる處は、深
 しと思ふ。○人の膝ま
 で、水は入らざらむと見え
 ば、甚深うらむ。もし深水
 あらば、二人とも立つこ
 と、能わざらむべし。○此河



架したる橋なり。汝は、此橋は、何より造りたる
 と思ふぞ。○橋は、木と石と鐵との別あり。木
 も、石も、水より造りたる橋なり。
 汝は、此男兒と何歳許か
 と思ふや。○此男兒は、
 十歳以上あり。○此男兒
 は、善き人なりと思ふ。○
 否、學問とやらせむ。又遊
 歩ともあらず。休む
 ところゆゑに、怠りもの。



知らずあり。○此男兒の何も倚りて、何と見るや。○此男兒の倚りたるもの、大なる石の柱なり。又此男兒の、何とも見ず、只天とあるじりあり。○總て、小兒の勉むべき時、遊ぶべき時もあり。○此小兒の如く、常に勉強とふさむるとき、成長の後、人より勝ることと得ざるあり。爰に、又急情の小兒あり。○彼の學校へ行くとき、云ひしが、何ゆゑに學校へ行くんかと、途中に遊び居りや。○未、學校へ行くべき時刻來らばや。○學校より、既に誓古始まりたるに、此小兒もど

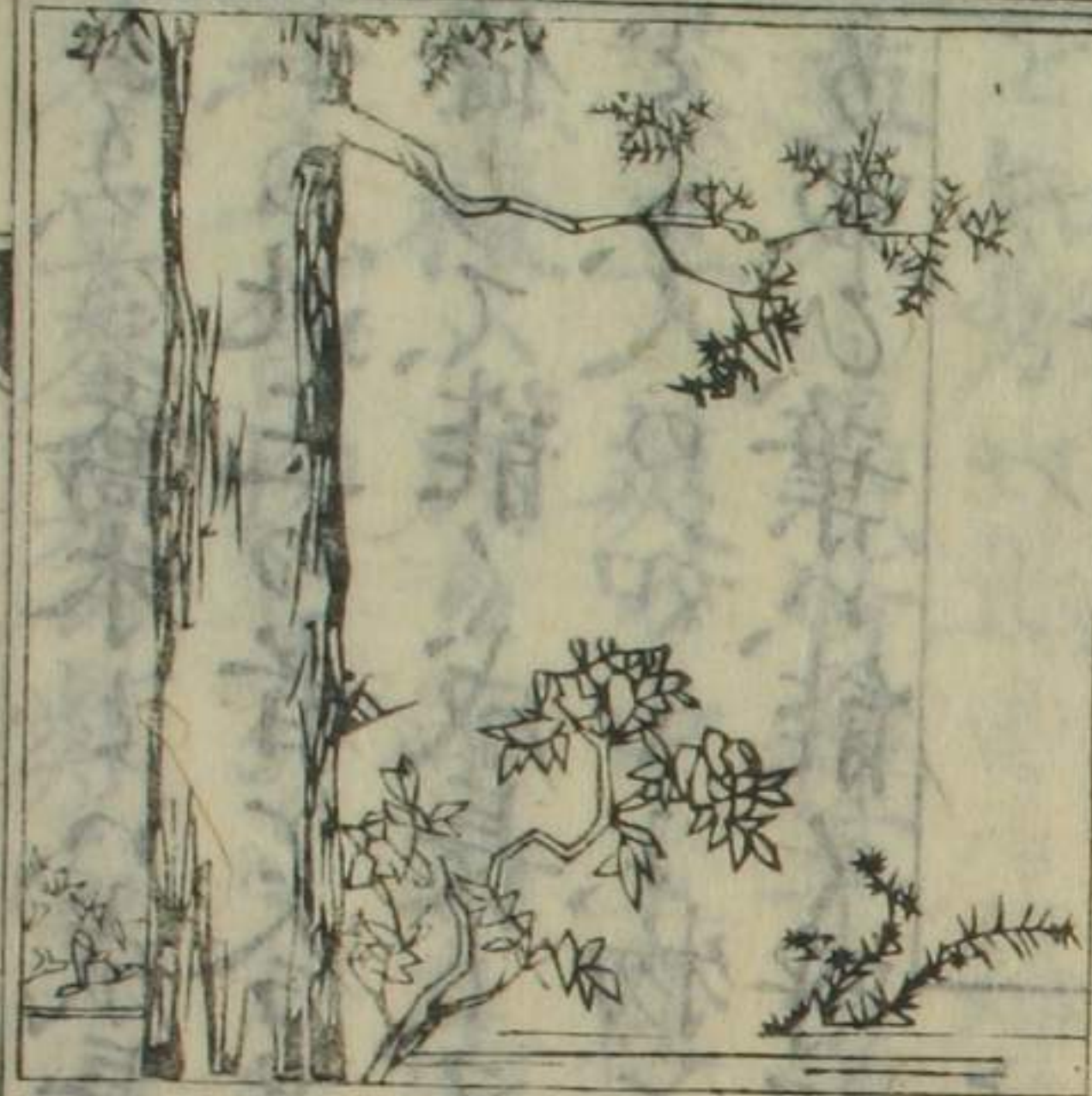
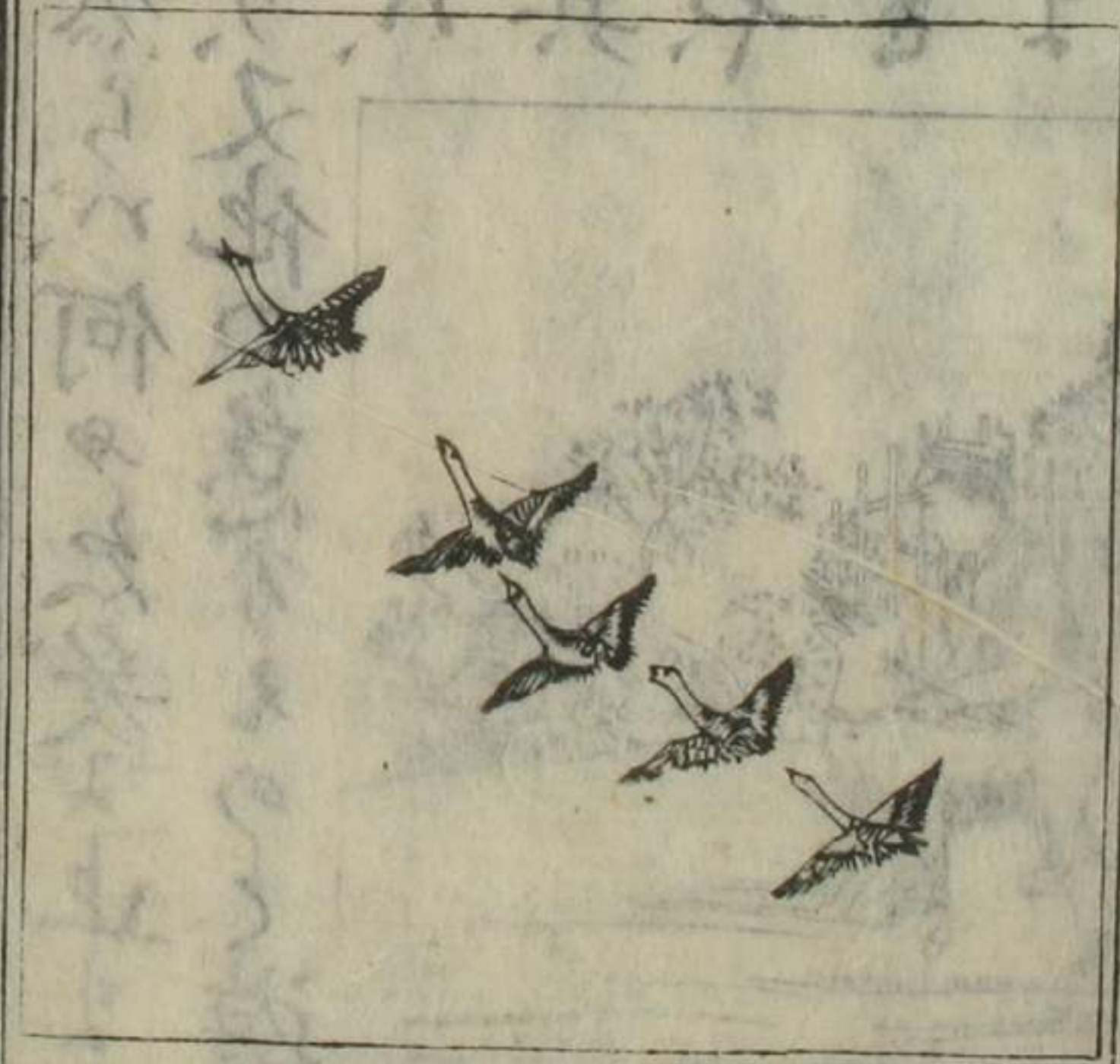
く行くべき時刻あり。○然らば、何ゆゑ爰に止まり居らや。○彼の犬に乗り、又他の急ぐものと遊ばんと、思へばあり。○彼の學校より行くものあり、其書と、何處に置きたるや。○書と、自分の家、息きたるあり。○さき、學校に行きたりとも、誓古と、とと得ば、○善き小兒の書と、大切なる、學校へ行



く好む、舊古の時間来き、決して途中を遊
び居ることあり、學校にても能く勉強して學ぶ
ゆゑ、其等級屢進むなり

第三

雁の列をかゝて行く圖
あり、○見らべし、一羽の
雁導とふせば、其他の雁
は、これに隨ひて飛行く
と、○是の何處に行くや、
○或は水邊に行きて、葦



の間は息み或は田より下りて、食物を求めんとし
るあり、
此鳥は、冬は北より南より來り、春に至るべし、又南よ
り北より歸る、故に夏は此地に居ることあり、
地は生ひ出づる物も、草と
木とありて、木は灌木と喬
木とあり、○草は其幹葉一
年限たりて、枯るものな
り、灌木は高一丈より出でを
と雖、其幹は枯まざるもの

あり、○喬木といへば成長して、高大に至るものと云ふ。○此三の者と合せて、植物と云ふ。植物の生と保ちて、能く成長し、又死しては、枯朽するものなるをども、人の如くは、物と思はば、根へ食物と地下より吸ひ、葉へ、能く呼吸をせども、鳥獸の如く、動くことあるまじし。



鳥は、二つの足と、二つの翼のありて、多くは、空中に翔る。又水上に住むものも、つら。○獸類は、四足よりして、膚は長き、毛は

り。○此鳥と獸といへば、身體と意より従ひて、動かさざども、人の如く言ふこと能くば、汝の實の草木の種類と知り、や。○其莢と見て、豌豆と蠶豆と、と知り、穂の形と見て、稻と麥とと知るべし。草木よは、皆種子より、豌豆、蠶豆、の莢の中より在りて、梨、李、橙、の肉の中より在り。○種子の食物とあるもの、稲、麥、豆、黍、粟の類あり、肉の食



物とあるものハ、梅、桃、梨、李、蜜柑の類なり。
 草木ハ、皆種子より生じ、濕ひたる土の中ハ、種子
 を置くときハ、漸ク膨脹して、遂ク破裂し、其所よ
 う、芽と根とを生ずるなり。
 鹿ハ、山林ニ住する獸なり。
 この獸の牡ハ、枝と生じ
 たる角有り、牝ハ、角あり、
 其色ハ、茶褐色にして、白き
 斑有り、
 鹿ハ、長き足有りて、走るこ



と、甚速あり。○常ク、草木の葉を食とし、或ハ、田野
 に來りて、穀物と食をること有り、此獸の角ハ、堅
 くして、器ニ造るべく、又其皮ハ、席と爲すべし。
 此男兒ハ、惡しき心のものあり、汝ハ、この男兒の
 持てる、帽の中ニ、ある物と見たるか、○これハ、枿
 の實あり。○此枿の實ハ、垣と踰えて、隣家より盗
 ん取まるあり。○今此男兒枿の實と、盗み取り、垣
 と踰えて、出でんとする所と、數多の犬ども、これ
 と見て、男兒と追ひつけ、一匹の犬男兒の裾と咬
 へたり、よりて、男兒ハ、垣と踰え去ることを得に

此時盜とたる柿の實と捨
てかば犬の裾と放つべけ
きども此男兒のこれと捨
つること能はん。他人の
物と盜むべし決して為まじ



きこととなり、善き小兒ハ自分の物よりけされば
取ることなし。常ハ行狀の正しきものハ幸多
く、正しうらざるものハ幸と得ること能はん。幸多
ば、汝等他人のものを見て何如あるものありと
も、必これと得んことと欲することふかまじ。



爰ハ四箇の雞と、穀倉とあり。○汝ハ見る所を
いこれのともありや。○否家の後ハ松の垣ハ寄
せて、立てたる簾あり、雞の飲水と、入きたる水鉢
あり。○汝ハ此鉢ハ水ありと
思ふや。○必水ありあるべし、
何と以て水のありと知ま
る。○此鉢ハ少し傾きて、一
邊の縁高く出でたるを以て水
のありと知まり、水ハ傾きた
る鉢の中にも、決して斜ま

傾くことあり、其表面の必一様よ、平あるものなり、汝の雞の水と飲ひて見しや、雞の牛馬の如く、首と下げて、飲ひこと能はん、ゆゑよ一滴口に入まば、首と舉げて、咽ふ、飲み下ださるなり、此處の、何如ある所ありや、此處の穀倉の傍なるべし、雞の巢よ、上らんとして、梯子と傳へ行くあり、此處の、何如あるや、此横木の、梯子の級あり、



汝の雞の巢を見たるか、巢の隠れて、檐の裏より、汝の見ることと得ん、汝此處よ來よ、汝昨日、失ひたる所の書籍と尋ね得たりや、否、未尋ね得ん、汝の文庫の中と捜し見んや、幾度も捜し見たまきども、其處よ、汝今一度尋ね見よ、書籍あり、

又汝よ、筆ありや、筆の命せよ、きたる如く、文庫の上よ、置きたる、汝の筆の用るか、たと、知まらば、否、未用りか、と知らん、汝今其筆と取來能はん、

も、汝よ、筆の用ゐ方と、教ふべし、筆の用ゐかたと、
 知らざらば、字と習ふこと能はず、
 汝は、今日、學校へ行きたりや、
 學校へ行き、終日學びて、先
 刻歸り來たり、然らば、座に
 就きて、復讀せよ、凡て、學びた
 り、所と、常は、復讀して、決し
 て、忘るべし、
 第四



岸の上よ、一人の少年、何りて、三艘の船の岸に着

くと見居たり、○三艘共、帆と十分は張りて、橋
 の上よ、旗と揚げたる、船な
 り、
 一人の少年云ふ、我が朋友
 は、去年先の船に乗るゝ外
 國よ、往きたりし、日と數
 ふま、其出立せし日より、
 今日まで、殆一年は及びて、
 歸り來たり、
 彼の兩親へ、日々、彼の歸る



と待たり。○今日無事ある顔と見ることと得て、
 何許の喜びし。うんまた彼男も父母の恙ある
 顔と見れば定めて大に喜ぶべし。
 彼船は堅固なる船とて風雨は逢ふとも破損な
 く無難に歸り來まは船中の人々の皆此船と忝
 く思ふるべし。

人々の外國に行くの學問或は貿易とふして我
 國の利益とあるんことと欲するがゆゑなり。
 總て鳥の嘴の長きものと短きものとあり。此
 嘴よく食物と啄む。○鳥の穀物と食するもの



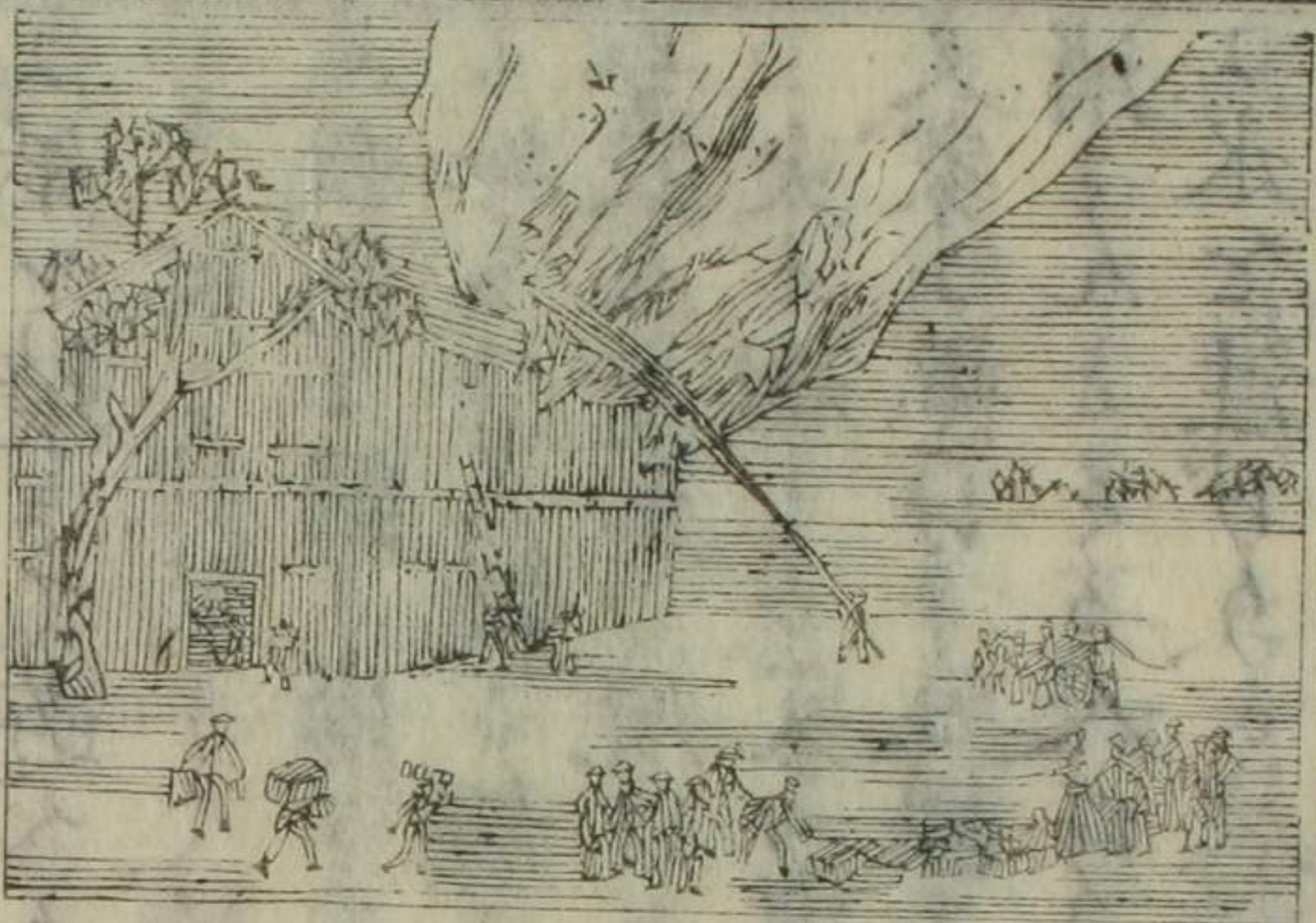
と魚又は蟲と食するものと
 あり。○鳥の目の面の兩側は
 ありゆゑ一時は兩方と見る
 ことと得るあり。○林中は遊
 ぶ鳥と林禽といひ水上は遊
 ぶ鳥と水禽といふ。○鳥の足
 ありは四指ありて三指は前一
 指は後よりあり然れども啄木鳥類も前後各二指
 ありて能く大木を上下し樹皮の中は住む蟲と
 探し食はる。

此人ハ驚きたる風情なり、是ハ何故ありや、何故あることと知らん。○此人ハ久しき以前、遠方より行きて今我郷に歸り來るよ、昔住みたり。一家の變りたるを見て、驚けるあり。

さて此家の斯く變りたる所以と話し聞かんべし。此人の家と出でたる後、近隣一人の小兒あり



し、此小兒ハ至りて惡くもものにて、ある日、紙と焼きて遊べるよ、其火忽家の障子に燃えつき、終に此家まで焼け失せたり。○さきバ、今此人我家に歸り來りても、未妻子の行きたる所とも、知ることも能はず、ゆゑ悲み歎くあり。今此人の家の焼けたる時の状と圖して示さん。○火と烟との家の窓より吹出づる所と見よ。○又家懸けたる梯子あり。○梯子より上りて、火と消さんとをる人あり。○多くの人も、唧筒にて頻に水と注げり。



此圖は、画きたるは、柔和あるの、柔和ある牛を、此小兒は

然もども、火猶消えど、家終に、焼け落ちたるゆゑ、この家の人々を、皆逃げ去るあり、さき、小兒の、火と弄ぶべし、一度過つ時、家とも、倉とも失ひ、甚しきに至りては、其身とも失ふこと、あるものなり。



随ひ徐に歩み、此小兒は、今牧場、牛と曳き行く所あり。此小兒は、何ゆゑ、歩みあがり、書と讀むや、此小兒は、其性極めて賢く、常に學問を

ことと好めども、家を負ひ、ゆゑ、學校に入ることを能く、日々、牧場を行くあり、然もども、學問の志深き、因りて、道と行く間も、書と讀むなり、又牧場に至りても、休む間、書と見よ

ることありし。此の如き小兒は、他日必人よまさ
 りて、貴き人とあらべし。
 惡しき小兒は、日々學校へ行くと雖、能く勉強せ
 ざしく、遊ぶことのみと、好むゆゑ、後より愚あ
 者となりて、貧賤を其身と終らべし。
 雲雀、巢を麥畠の間、造りて雛を育てたり。○麥
 は、已に熟して、刈るべき時に至りたる。雛は未
 自由、飛ぶこと能はば、一日、親鳥食を求めんと
 て、飛び去り、暮る及びて、歸り來まば、雛告げて今
 日、此畠主なる農夫其子と共に來りて、明日は近

隣の人を雇ひて、此麥を刈り取らんとて、歸ま
 と云ふ親鳥聞きて、彼近隣の人と、雇はんとあ
 ば、未急よ、刈取るべから
 ば、明日は、此處より取りとも、
 恐るよ、よ足らばといひ、其
 翌日も、亦食を求めんとて、
 飛び去りたり。
 かくて、日の暮る、比親鳥
 歸り來まば、雛又告げて、今
 日も、農夫其子と共に來りしが、近隣の人も、同



く、己が作りたる、麥と刈るに暇なれば、明日
の朋友親族と頼みて、刈り取らんとて、歸まると
云ふ親鳥は、彼尚他人と頼むの心なれば、明日も
憂ふるよ足らばと云へり。
さて、其翌日、親鳥例の如く、飛去りて、歸り來るよ、
雛の云ふ、今日の農夫父子來りて、かく麥の熟せ
らうへい、最早他人の方と待つよ暇なれば、明日
は、自刈り取るべしとて、歸まると云へり。
親鳥はこれと聞きて、然らん我等も、疾く此處を、
立ち去るべし、農夫が、自刈り取らんと決したる

うへい、必日と延びなべしと云へり、とぞ、
親鳥の言實の理あり、他人に依りて、事と成さん
とある者、恐るよ足らざれども、自為さんと
決する時、須臾も猶豫せざるべし、けいあり、さ
まば、人々皆自為さんことと志し、他人の力と
ば、頼むべしと云へり。

第五

今、花園よ、善き種子と蒔きて、善き植物と、生ぜし
め、美しき花と、開うと云ふ、とあるよ、園中よ、蔓を
る雑草と、抜き取らざるときは、蒔きたる種子と、

害して、生長を妨ぐることを能わざるを教む。今此處に花園の雑草を抜き去る圖を出だし、以て、これと示さん。地はもとよきものあるも、善き種子と蒔くがれば、よき植物と生じ、美しき花と開くこと能はん。又芽既に萌出でたるるときは、能く培養せざれば、生長を妨ぐること能はん。雑草はこまよ反

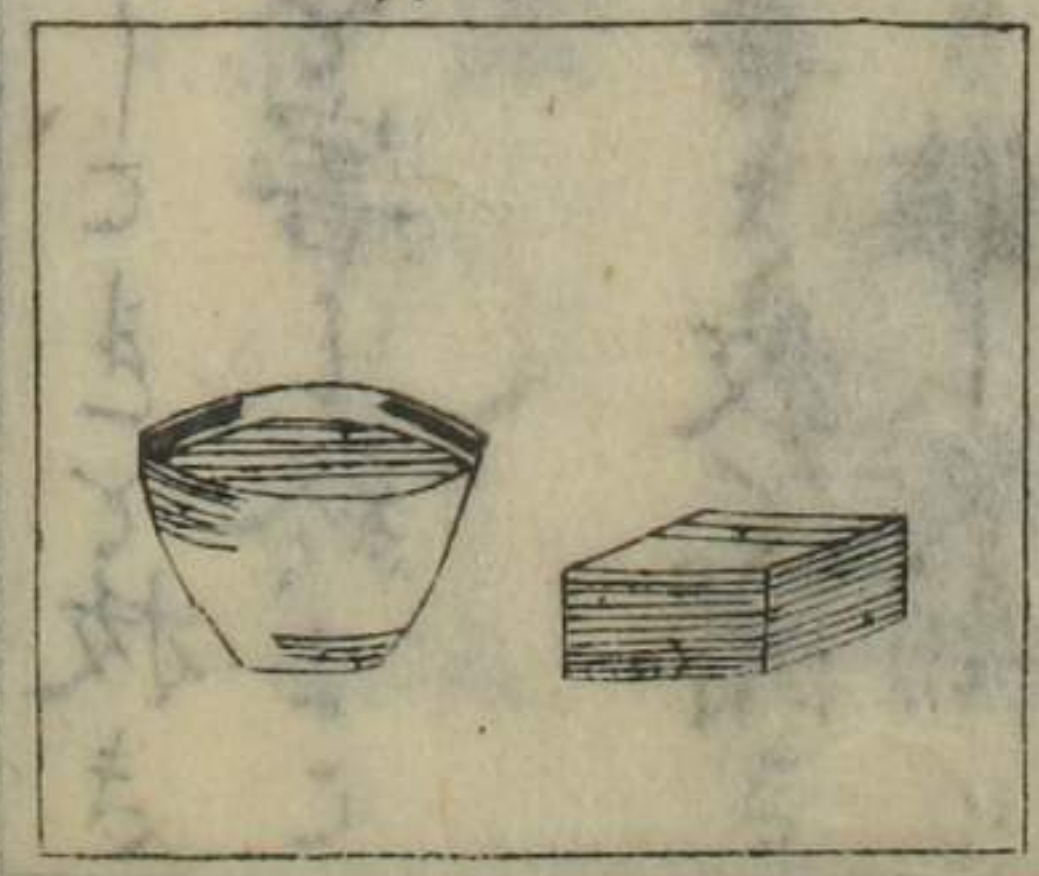


して、種子と蒔くがれども、自生長し、こまよ抜き去らざれば、大に蔓りて、善き植物と害し、終つてこまよ枯らし盡れ、至るべし。人の心に、もと、善きものあれども、善き教と聞きて、これに従わざれば、善き人と成り難し。教師の教、即我心に、種子と蒔くと同じ故、よ心に用ひてられ、育ひ能く成長せしむべし。然れども不正の心の生じ易きこと、雑草の如く、かまばい心蒔きたる、善き種子と、害をばきもの、勉めてこまよ抜き去らば、いづれ、こまよも、こまよと抜き

き去ることと、怠りて成長せしむるときは、終に
ハ中ニ萌ゆる、良心と害して、これと枯らし盡
至らべし、

汝等、善き人と、あつんことと欲せば、此人の雜草
と抜き去る如く、勉めて不正の心と抜き去る
べし、

爰ニ圓き器と、四角ある器と、入
きたる水、ゆるもと水ハ同じけ
ども、其器の形由りて、或
四角ある形となき、



人も小兒の時ハ此水の如し、善き友と交りて善
きことと見聞け、善き人とあり、又惡しき友と
交りて、惡しきことと見聞け、惡しき人と
あるなり、

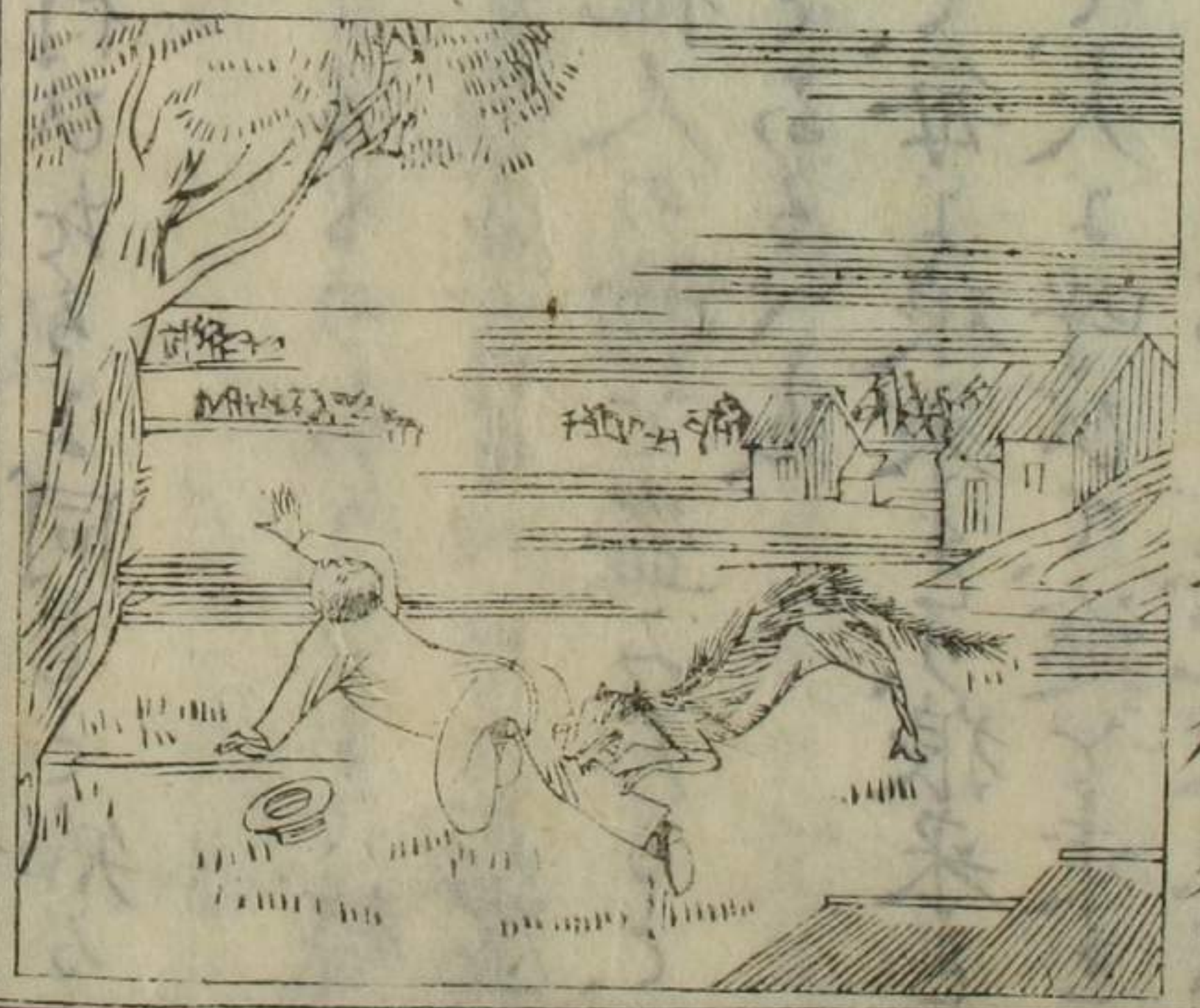


家の内外ニ、數多の小兒あり
て、其遊ぶる所の、各異あると
見らべし、家の内ある小兒ハ、
日々學校ニて學びたる所と、
家ニ歸りて、其友と互ニ問答
して、こまを樂とん、此等ハ他

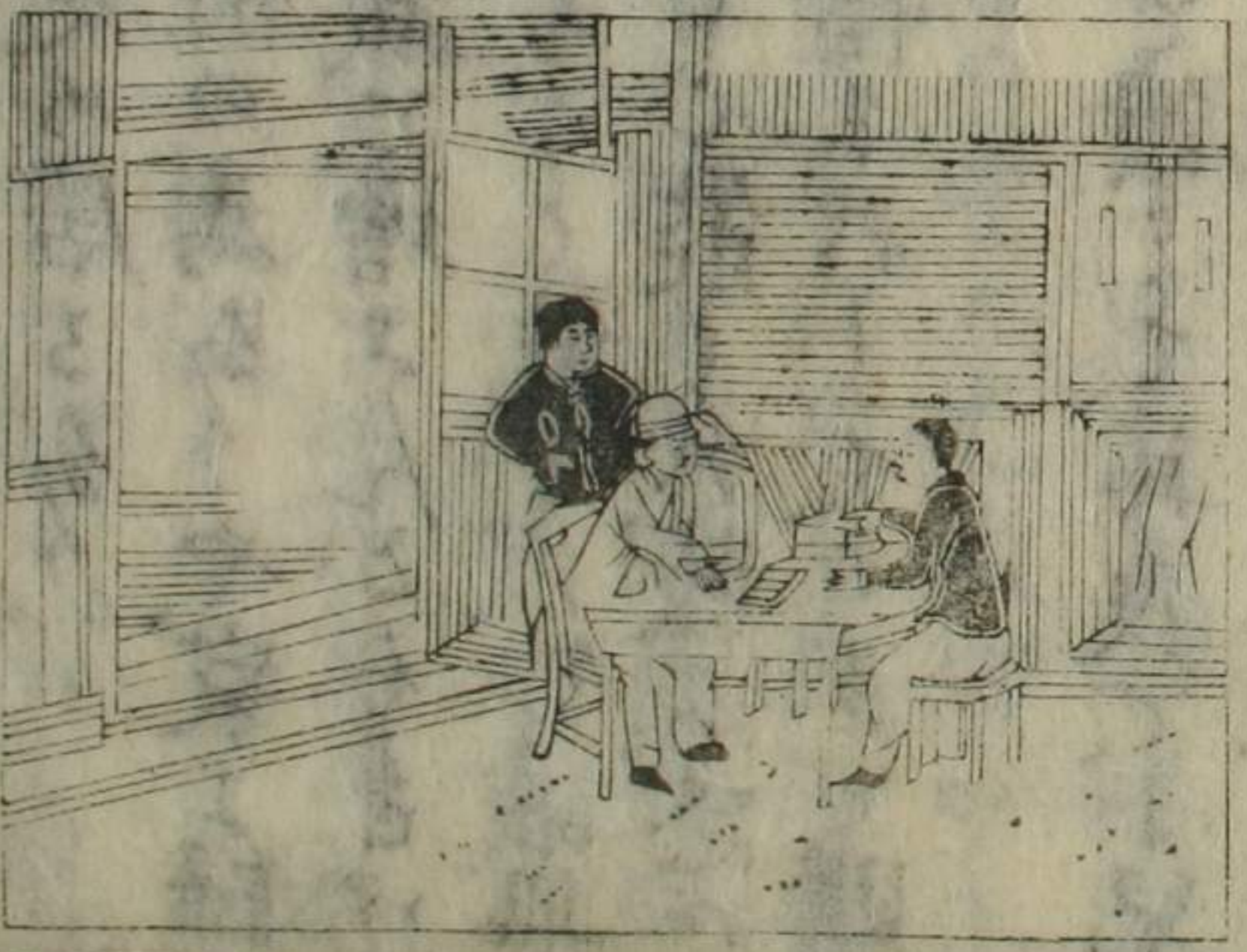
日、必賢き人とあるべし、又外より集まり遊べる小
兒の學校にも、行くきる者と見えて、犬と噛み合
せ、棒と打揮り、無益の遊の事とふせり、此等の後
日、必愚あるものとあるべし、汝等賢き人とあら
んと思ふも、能く心を用ゐて、常よ善き友と交り
必悪しき小兒と遊ぶべからず、
汝等事の正しき事と知らるとき、たゞ他
日、利の事とて思ふも、決して行ふべからず、
又悪しき業とて假事も必行ふんことと思ふ
べからず、若し心は行かんことと思ふとき、縦令

事よ、出さざるとも、既に行ひたるよ、同じと知る
べし、
凡て悪事の虚言より、始まるものあり、さきば暫
其身よ、利益の事とも、決して虚言をべからず、虚
言と以て得たる利益は、他人の物と盗みたるよ、
同じく終る、其身の害とあるべし、
ひとり一人の男兒ありて、毎よ狼來まら、狼來ま
り、誰か出で、救ひ給へと、大よ呼びて、途と走ま
り、それの真よ、狼の來まらよ、いづれ他人の出
來りて、救まんことをとまき、欺き得たりとて、大

其人を笑ふと以て、戯とをるあり、斯くはるること、度々ありしが、ある日、真に狼來りて、此男兒と食まんを以て、男兒ハ大に呼びて、狼來まり、救ひ給へと、いへども、誰も、亦例の虚言あるべしとて、こまこと救ふものありしゆゑ、終に狼のため、噬み殺されたり、故に平生、戯も虚言



と以て、人と欺くもの、適真實のことと、話をもも、信とめんもの、いづれに、常に、慎むべきことあり、此處と、何如ある家ありと、思ふもの、こまの、書肆あり、爰に、三人の男あり、帽と戴きたる、二人の者の、書籍と、買まんがため、此處に來るなり、一人は、既に、一冊の書と、購ひ得て、去らんと



一人の机上の書の價と定め居るあり

今此二人の書籍と買ふの何の為ありや家歸りてこれと理會し己の智識と増さんとをまばあり書ありけりへ智識と増さん能はん智識無きときい國の利益と興をこゝ能はん故志願る者有用の書とば金と惜まんとてこまを購ふあり

此圖の男の手持てる書と讀みて其義と小兒も語り聞らしむる所あり。汝この小兒の能く心と用ゐて其話と聞くと思ふ。此小兒の心



と用ゐて其話と聞くと見え、此男の語りことと深く考ふるさまあり思ふよ今聞く所の此書の中の尤大切なる箇條あるへし。凡て教と人は受る者へ決して倦怠の心と生をばへつべ倦怠の心と

生むるときは直に其顔色を見れば其心も教ふる者も亦これと知りて懇に教訓をすることかしきれば教と受る者へ皆此小兒の如く心と用

めて其話と能く考ふべきことなり、

第六

汝の猫の兒と愛するや、又犬の兒と愛するか、
我の猫の兒も、犬の兒も、其遊
び戯る所と見ることと好
やく、

總て、獸類も、稚き時の小兒の
如く、遊び戯ることと、好む
ものあり、中には猫の兒の繩
又ハ鞠と弄びて、能く戯を遊ぶあり、然まとも



獸類も、年老ゆまの遊び戯ることと好まば、人よ

しく、年長けたる後まで遊び戯るは、恥づべき
ことより、さき、老たる猫の其兒の戯
を遊ぶと見ることと、好むども、其身に觸るること
と、喜ばざるなり、○老人も、小兒の遊ぶと見
ることと、好むども、其身に觸るることと、喜ば
ざるものゆゑ、小兒の遊び戯るとも、老人の身
に觸るゝ、又ハ其椅子机を、決して、手と着く
べし。

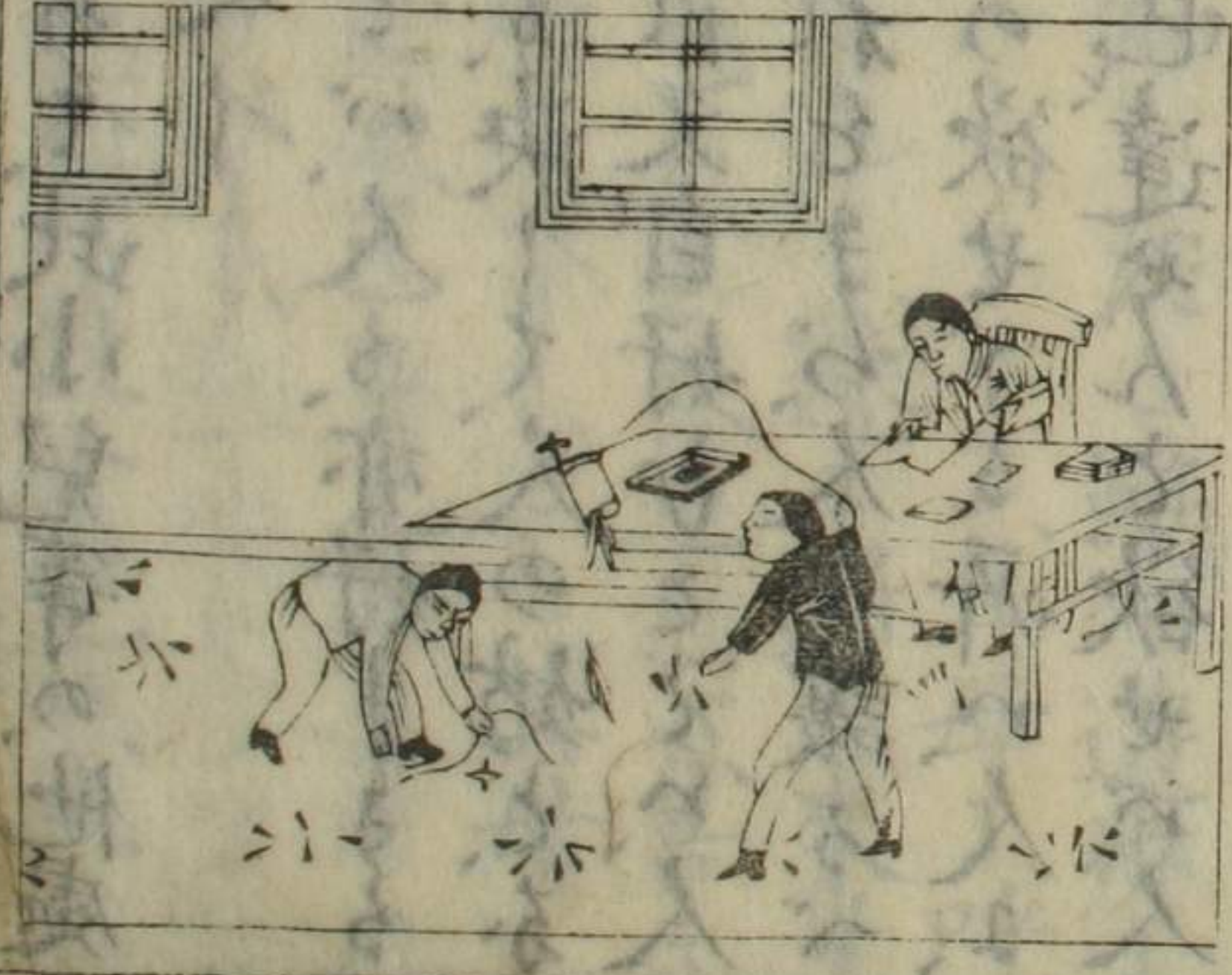
此小兒の學校よく、善き生徒あり、○汝の此小兒



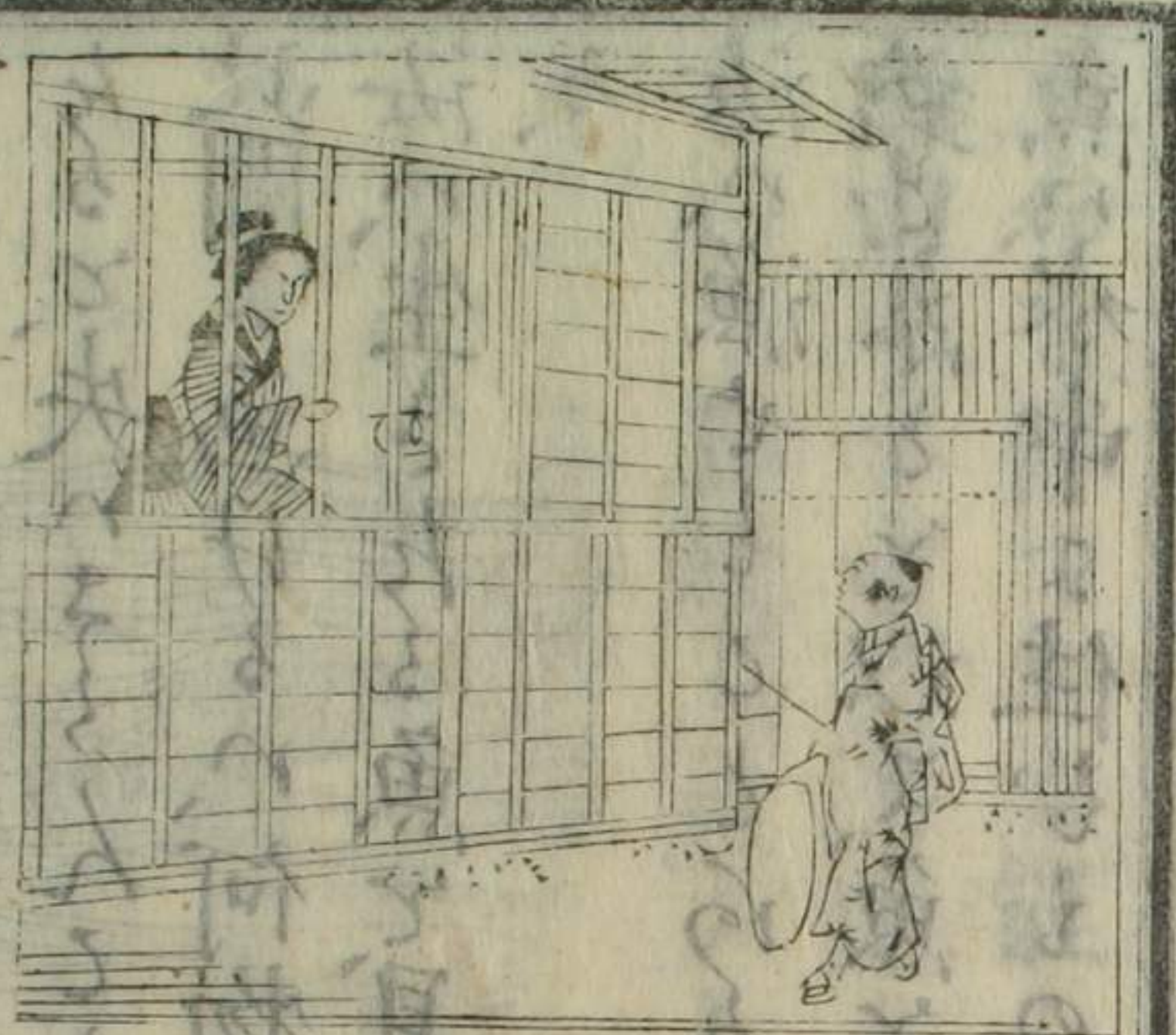
の學校にて書と讀むと聞きたりや。○此頃始めて、こまを聞きたり。

此小兒ハ、何の書と讀めりや。○彼ハ小學讀本と讀めり。○其讀む所の小學讀本ハ、何の巻ありや。○彼ハ、卷の三と讀めり。我ハ、この小兒の如く、能く書と讀むものと、好む能く書と讀むものハ、後ハ、善き人と、ふまむをり。○若學問もかく、智慧もかくハ、いかでや、善き人と、あることと得べ

き、善き人と、あることと得ざれば、他人ヲ愛せざらんこともなく、又貴ばらんこともなく。○幾ハ、三人の小兒あり、一人ハ、机ヲ向ひて、書と讀み、二人ハ、獨樂と廻りて、遊べり。獨樂と廻りて、跳り旋るゆゑ、机ヲ觸きて、其上の筆筒と倒せり、書と讀む居たり。小兒の心ハ、此二人の戲を遊ぶと、何如ハ騷



づしく思ひ居らるゝん定めて此小兒等の他處
 へ行らんことと願ふをるべし
 總て人の自好まざることとバ人も亦好まざる
 ものと思ひ遊び戯るゝにも決して人の妨と
 なるべきこととあるべし又自好むことハ人
 も亦好むものを知りてこれをまづ人ヲ讓るべ
 しさき古き教へよも己の欲せざる所ハ人
 施をことふられといひ又己達せんと欲せば人
 と達せしめよとも云へり
 爰に遊歩に出でんとをる小兒の汝ハ此小



兒の善まど惡しきことと知
 るりや我ハ本其人と
 知らばと雖今遊歩
 出でんとすら其母ハ呼
 び返されて速に歸り來
 ば否か色あきと見まば善ま
 ものあるべし其母ハ
 呼ひ返すはこまど厭ふ
 心の色ハ見まらば
 必善まをのりしと知るべし
 此小兒ハ未學校に入らざるか
 此小兒ハ五六

歳一過ぎんと見ゆまじ、未學校に入らざるべ
 也、我ハ此小兒の學校に入りても、遊歩の事と好
 ずんば、勉めて書と讀み成長の後も其善き人
 たらと、失はさうんことと願ふあり、其母
 此圖を画けらハ、何物ありや、○こまハ魚あり、
 汝ハ生きたる魚と見たるべし、○常ハこれと見
 る、
 汝ハ漁せしこと何と以て漁せしや、
 釣と糸とと以て、魚と釣しこと何と以て、
 魚ハ水中に住むものゆゑ、水と離るるとまじハ



其命と保つこと能ふん、魚ハ、鱗と、尾何とて、
 自由ハ水中と游泳し、又全身ハ鱗あり、鱗ハ
 きらり、其鱗ハ、魚よりりて、大小と異ハせり、
 汝ハ、魚の水中よりるとき、
 其目ハ、物と見ると、
 思ふハ、然ル、水中にても、
 物と見ると、何と
 以て、水中にても、能く物と
 見ることと、知まらや、○も
 水中にても、物と見ること、

能いざらざる時、必岩石に衝き當りて、頭と傷くべし、然らざるものいよく物と見ることと、得まじかり。

人、水中よて、物と見ること、分明あり、魚の水の中よても、甚分明なり、

そま、魚の水中よて、能く物と見らる、其目、人と同トウラざればあり、

魚、水中よ住む、人の空氣中よ、住むゆゑ、人の空氣中よて、能く物と見らる、魚の水中よて、能く物と見らる、同じ、

今この男兒、家と辭して、遠行せんとして、戸前の階と降りたるゆゑ、其妹も、階と降りて、これと送り、別よ臨みて、互よ言と贈答をる所なり、

兄曰、汝慎して、家と守り、能く、其身と保つべし、火と過つことあり、病と生をることあり、れと、○妹、吾兄寒暑と犯をべし、又久しく、他郷よ、止まらるべし、と云ふ、



兄又云予、彼郷に到らば、速に書と以て、安否と報をべし、汝も亦其安否と報せよ、予が他郷に在る間、只汝の消息と得ると以て、樂とあらんべきのみ、
汝等此二人も、何如あるものと思ふや、これハ同胞の孤あり、孤といハ、幼稚のときよ、兩親と喪ひたるものといふ、
此二人早く、兩親と失ひたるゆゑよ、今自身と立てんとするなり、
今この男子ハ、遠方へ行きて、幾年妹と相見ること

とて得んとも、文字と知まるゆゑよ、互に書簡と贈答して、其安否と審よとることと得べし、
も、此二人、文字と知らんハ、何よ、因りて、音信と通をることと得べき、
汝等此二人の事と見て、能く文字と習ひ、勉めて、書簡と作ることを學ぶべきなり、
ひり、ある家よ、兄弟の小兒あり、兄ハ七歳よし、弟ハ五歳なり、○兄ハ其才、最敏よし、心も亦優しきものあり、弟も、良き性質あるとも、尚幼きゆゑ、未だ世間の事と知らん、
輒もそれハ過りたる

舉動とあることあり



ある日兄弟とも、郊外に出で、遊べりし、ある家の籬より小鳥の巢あり、親鳥一人の來りし、驚きて飛び去りたり、兄弟は巢の中で窺ひ見ると、雛三羽あり、弟は悦びて、雛を取りて持ち歸らんとし、兄はこれと止めて、親鳥の子と愛せり、父母の我等と愛し給ふ、同じ、今汝この雛と取り去らば

親鳥の悲何如あるん若我家より入り來りて我等兄弟と捕へ去るものありば、父母の悲を給ふこと幾あるん、まゝとや、雛は親鳥の養より由りて、生長するものにして、余人の手よりかたりおぼ、決して育つことありべし、されば、今この雛と取らざるこそよき事と、諭しけむ、弟も、其理を服して、兄の教に、隨ひたり、此弟の鳥の雛と、取らんとするは、殺生をるよへ、非ざども、其理と論をれば、かくの如し、まゝして無益に殺生をるとや、

これバ、縦、小き蟲たりとも、無益ニ、殺をべうべ、
世の理と、知らざる者ハ、小き蟲と、殺を以て、此
細の事とせり、實ニ、此細の事ヨ、似たりと雖、こま
と、殺さんと、思ふ心ハ、即、此細の事ヨ、何んべ、この
心、既ヨ、慈悲と失ひたりあり、慈悲と失ひたる心、
漸長をるヨ、至らば、畜類と、殺をのこるべ、
終ヨ、人ト、殺その大惡トモ、陷るべし、豈恐まざ
るべけんや、
故ニ、殺生と、誡むるハ、慈善の人とあるべき階ニ
して、終ヨ、類まきある、善人とともなり、身の幸福

と、得るヨ、至るべし

小學讀本卷之二終

明治十六年六月六日翻刻御届

東京府平民

翻刻出版人

柳河梅次郎

日本橋區本町二丁目十番地

